

[433]九州大学大型計算機センターニュース :
No. 433

<https://doi.org/10.15017/4787636>

出版情報 : 九州大学大型計算機センターニュース. 433, pp. 1-9, 1991-02-05. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :



目 次

1. TTY端末における漢字端末クラス初期値の JIS 83 への変更について	1
2. カタログドプロシジャの廃止について	2
3. MTL導入に伴うマスストレージの新規受付開始について	2
4. LIBCOPYの公開について	5
5. 平成3年度(前期)ライブラリプログラム開発計画募集について	6
6. 平成3年度公用データベース提供課題, 公用データベース用ソフトウェア開発課題の申請について ...	8
7. INSPEC収録雑誌データベースの更新について	8
8. センターニュースNO. 432, 3の一部訂正について	9
9. 「利用の手引 バッチジョブ編」の発行について	9

1. TTY端末における漢字端末クラス初期値のJIS 83への変更について

4月1日(月)から、TSSセッション開設時のTTY端末の漢字端末クラス(JTTYコマンドの初期値)をJOISからJIS 83に変更します。これは、利用者提供の通信ソフトがJIS 83をサポートしていることや、現在市販されている通信ソフトにはJOISがサポートされてないことなどの理由によります。変更後は、LOGON時の日本語メッセージが読めなくなりますので、利用者は現在使用している通信ソフトの設定漢字の変更をお願いします。

(ネットワーク掛 内線2542)

2. カタログドプロシジャの廃止について

センターでは、毎年、年2回に分けてライブラリの利用状況を調査しています。その結果、以下のカタログドプロシジャは、過去2年間にわたって利用が全く無いことが判明しました。今後、新規の大規模ソフトウェア導入が予定されていますので、計算機資源有効利用の観点から、これらのプロシジャは1992年3月31日をもって運用を停止することにします。

なお、運用停止により支障の生じる方は、センターまでご連絡下さるようお願いいたします。

AUDIE
CNVSM
FMTEDT
FORPREX
HLISP
LISP
MOKUJI
NAMECHNG
NAMELST
NLPEDT
PASSWORD
REDUCE3>REDUCE33へ移行
SAKUIN
SASNLP
TAFT
TLP
TSSCATLG.....>TSSBATCHへ移行
TEXTFMT
ZHNET

(ライブラリ室 内線2508)

3. MTL導入に伴うマストレージの新規受付開始について

平成3年2月4日(月)からマストレージ利用の新規受付を再開します。マストレージは、現在までその保存媒体としてディスクを利用した暫定運用を行っていました。保存媒体がディスクでは容量面およびコスト面で様々な問題があるため、新規利用の受付を停止していました。今回、MTL(磁気テープライブラリ装置)[1]を保存媒体としたシステムを導入することにより、通常のデータセットと同様の使い方ができるようになりました。利用を希望される方は、共同利用掛に申請してください。申請および利用においては、次の事項に留意してください。

1. マスストレージの申請, 負担金, および, 利用について

1. 1 申請

- 1) 利用申請は, 「マスストレージ利用申請書」を共同利用掛に提出すること。
- 2) マスストレージは, 一登録番号につき100メガバイト単位の容量で貸し出され, 最大500メガバイトまで申請することができる。
- 3) マスストレージは, 申請者だけでなく共同研究などのグループで使用する事ができる。この場合, 貸し出された容量の範囲内でグループが共用することになる。申請時の登録番号以外の登録番号で利用する場合にはシステム管理掛(内線2518)に依頼すること。
- 4) 取り消しは, 必ず「マスストレージ取消申請書」を共同利用掛に提出すること。なお, 申請している登録番号が予算オーバーや有効期限切れ等で失効した場合も取り消し申請を行うこと。

1. 2 負担金

マスストレージは, 容量100メガバイトにつき一月1000円。

1. 3 利用における留意

- 1) マスストレージは, 保存媒体としてMTLを使用するが, 利用効率をよくするために, ADF (Advanced Data migration Facility) [2, 3] のマイグレーション/リコール機能を使用している。このためアクセスの少ないデータセットをMTLに移動する制御を行うのでTSSからデータセットを使用すると,

KBX10201 ADF IS RECALLING データセット名

KBX06701 hh:mm:ss VOLUME ALLOCATION STARTS

KBX06711 hh:mm:ss ALLOCATION COMPLETED, DATA MEVEMENT IS ABOUT TO START

KBX10001 データセット名 RECALL COMPLETED

のメッセージが端末に表示されて, 少し待たされることがある。

- 2) マスストレージ上のデータセットは, 共用ボリューム(ディスク)上のデータセットとは異なり, センター側によるバックアップは行わない。このためバックアップは, 利用者自身で磁気テープ等に行うこと。

2. 利用法

データセットを新規作成する場合, 装置名(UNITパラメタ)を次のように“MSD”と指定します。

バッチの制御文

```
//DD名 DD DSN=データセット名, UNIT=MSD, DISP=(NEW, CATLG), SPACE=(TRK, (100, 10))
```

TSSのALLOCATEコマンド

```
ALLOCATE F(DD名) DA(データセット名) NEW CA UNIT(MSD) SPACE(100 10) TR
```

同様に, 既存のデータセットをマスストレージへ複写する場合も, あらかじめマスストレージ上に領域を確保して行ってください。

複写の例)

既存データセットPUB. DATAをマスストレージ上のデータセットMASS. DATAに複写する。

バッチの制御文例

```
// EXEC PSCOPY
```

```
//SYSUT1 DD DSN=A79999A. PUB. DATA, DISP=SHR
```

```
//SYSUT2 DD DSN=A79999A. MASS. DATA, DISP=(NEW, CATLG), UNIT=MSD,
```

```
// SPACE=(TRK, (100, 10), RLSE)
```

TSSのコマンド入力例

ALLOC DA(MASS.DATA) NEW CA UNIT(MSD) SP(100 10) TR

COPY PUB.DATA MASS.DATA NONUM

マストレージ上に作成したデータセットは、通常のデータセットと同様にアクセスすることができます。

3. マストレージの容量管理

マストレージは、次に示すLUコマンドで現在の使用量を知ることができます。共同研究などのグループで使用している場合は、各々の登録番号でLUコマンドを入力して得た使用量をそれぞれ合計したものが総使用量です。

READY

LU

USER=A79999A NAME=#####

ATTRIBUTES =NONE

====< SECURITY INFORMATION >====

DEFAULT-GROUP =USER OWNER =A70006A REGISTERED=86.03.05

CLASS-AUTHORITY=NONE

DATA =NONE

PASSWORD-DATE =00.00.00 INTERVAL=30 LAST-ACCESS=90.12.06

:

:

====< DASD INFORMATION >=====

SUPGROUP=MSSG001 SHARE PERMITTED=88.03.31

---ALLOW-----SPACE<KB>--DSNUM---

SUM LIMIT 102400 32767

USED 3232 5

MIG USED 1658 3

BKU USED 0 0

→ マストレージ上のデータセットの個数

→ マストレージの総容量

→ マストレージの使用量

参考文献

1. 計算機マニュアル F 6 4 5 5 磁気テープライブラリシステム解説書 (97HP-7200-1) .
2. 計算機マニュアル A D F 運用手引書 V 1 1 用 (79SP-4170-1) .
3. 計算機マニュアル A D F 使用手引書 V 1 1 用 (79SP-4160-1) .

(共同利用掛 内線 2 5 0 5)

4. LIBCOPYの公開について

2月4日(月)から、標記コマンドを公開します。LIBCOPYコマンドは、富士通製数値計算ライブラリ SSL, SSL II 及び 九大成ライブラリ各々のソースプログラムを表示、印刷 又は データセットへコピーするためのツールです。

入力形式)

コ マ ン ド	オ ペ ラ ン ド
LIBCOPY	メンバ名 DATASET (* データセット名) SYSOUT (出力クラス プリント機番) [SPACE (' 初期量 増分量')] [DIR (整数)]

オペランドの説明)

メンバ名

メンバ名を1つ指定する。メンバ名はSSL/SSL IIの場合はサブルーチン名を、九大成ライブラリの場合は分類コードとプログラム名をつづけたものを指定する。

DATASET (*)

端末に表示することを指示する。(省略値)

DATASET (データセット名)

指定した区分データセットにコピーすることを指示する。指定したデータセットが存在しなければ、SPACEおよびDIRパラメタ値で新規に作成される。

SYSOUT (出力クラス)

指定したプリンタに出力することを指示する。

SPACE (' 初期量 増分量')

出力データセットを新規作成する場合のスペース量を指定する。省略値は' 10 10'。

DIR (整数)

出力データセットを新規作成する場合のディレクトリブロック数を指定する。省略値は10。

■注意

上記のサブルーチン群は、センター利用の便宜を考慮した上で、著作権者の許可を得て公表するものです。九州大学大型計算機センター以外での使用は禁止されています。なお、SSL IIのVP版は含まれていません。

(ライブラリ室 内線2508)

5. 平成3年度（前期）ライブラリプログラム開発計画募集について

ライブラリプログラム開発計画募集要領（後述）に基づき、標記開発計画を下記のとおり募集します。多数の応募を歓迎致します。

記

1. 応募資格 本センター利用有資格者
2. 応募締切 平成3年3月4日（月）
3. 応募手続 所定の申請書に必要事項を記入の上、ライブラリ室（内線 2508）まで提出する。
（申請書および募集要領は、ライブラリ室に用意してありますので、請求して下さい。）
4. 対象課題 a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
 b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

なお、開発されたプログラムは、なるべく早い時期にセンターのライブラリプログラムとして登録および公開するものとしますが、これら開発に関する事項の詳細については、次項に示す募集要領を参照してください。

ライブラリプログラム開発計画募集要領

1. 対象となる課題

- a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
- b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

ただし、次のような課題については原則として認めない。

- i) 一般的な手法が確立されていなくて、研究的性格の強い課題。
 - ii) 既に登録されているプログラムの保守、デバックのための課題。
 - iii) 他センター等のプログラムの書替え・移植において、その作業が極めて容易であると考えられる課題。
2. 公募は年2回（前期、後期）とする。申請された課題は、締切の翌月のプログラムライブラリ委員会（以下、委員会）で審査する。ただし、開発に際し、多数の長大ジョブの実行が必要であると考えられる場合は、原則として前期に申請し、繁忙期に入る前（11月位）までに開発を終了するものとする。

前期締切：2月末日（開発開始は 4月1日予定）

後期締切：8月末日（開発開始は10月1日予定）

採用された課題は、センターニュースで広報する。

3. 開発者の義務

- i) 開発終了後、早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するものとする。
- ii) 利用者のための「利用の手引き」を作成する。これを終了報告書として委員会で審議する。
- iii) 開発したプログラムの概要あるいはその使用法をセンター広報に掲載する。

4. 開発に係る経費等

- i) 採用された課題に対して、ライブラリ開発用の登録番号を割当て、それに係る計算機利用負担金は、センターで負担するものとする。計算機利用負担金の限度額は、申請時の計算時間により別に定める。
- ii) 計算機利用負担金以外で開発に必要な旅費、雑費等は、この開発計画による負担の対象とはしないので留意すること。

5. 開発作業

- i) ライブラリ開発は年度毎（4月～翌年3月）とする。開発継続の場合には、十分な資料とともに継続申請書を提出する。
- ii) 開発継続の場合にも、完成した範囲内で登録手続きをとることが望ましい。
- iii) 同一課題での継続は、原則として3年までとする。

6. その他

- i) 申請書に不明な個所があったり、申請計算時間が過大であると思われる場合や、開発経過が不首尾であると考えられる場合は、委員会にて口頭説明を求めることがある。
- ii) サブルーチンまたは関数副プログラムのライブラリの場合、既に登録してあるものと呼び出し名が同一にならないように注意すること。
- iii) オンラインマニュアル（計算機に格納され利用可能なマニュアル）を用意することが望ましい。

申請計算時間と予算額

計算時間（分）	60	120	180	240	300	360	420	480	540
予算額（万円）	10	15	20	25	30	35	40	45	50

（ライブラリ室 内線2508）

6. 平成3年度公用データベース提供課題，公用データベース用ソフトウェア開発課題の申請について

標記申請を下記のとおり受け付けます。公用データベース，公用データベース用ソフトウェア開発課題は，申請されたものの中からデータベース委員会で審議の上，決定されます。公用データベースと認められますと，開発，構築，維持に必要な利用負担金が一部または全額免除されます。

記

1. 申請資格 本センター利用有資格者
2. 申請締切 平成3年3月1日（金）
3. 申請手続 所定の申請書に必要事項を記入の上，データベース室（内線2510）まで提出する。
（申請書はデータベース室に用意してあります。）
4. 対象課題 広範囲の研究者により学術研究上必要とされ，継続的かつ頻繁な利用が見込まれるデータベース，及びデータベース用ソフトウェア

（データベース室 内線2510）
furukawa@sun4.cc.kyushu-u.ac.jp

7. INSPEC収録雑誌データベースの更新について

1月21日にINSPEC収録雑誌データベースINSPEC-Jを1991年版に更新しました。収録雑誌数は6,031件です。

参考文献

1. 篠原ほか：情報検索システムAIRの改訂について，九大大型計算機センター広報，Vol. 20, No. 3, pp. 211-238, 1987.

（データベース室 内線2510）

8. センターニュースNO. 432, 3の一部訂正について

センターニュースNO. 432のP. 3「他センター申請種類別利用受付期間一覧」表中、北大センターの内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。

記
正 誤 表

センター名	申請種類別	所属センターとしての受付期間	
		正	誤
北大センター	H3年度新規・追加	H3. 3. 1～	H3. 4. 1～
	〃 変更・取消	H3. 3. 1～	H3. 4. 1～

(共同利用掛 内線2505)

9. 「利用の手引 バッチジョブ編」の発行について

従来、「センタージョブ制御文マニュアル」の名前で、提供してきたマニュアルのバージョンアップ版を、この度標記の名前に変更して発行します。今回より製本版のみの提供となります。製本版は数に限りがありますので、必要な方は連絡所を経由して早めに共同利用掛までお申し込み下さい。なお、製本版は2月上旬より配布可能です。

(ライブラリ室 内線2508)